

放牧草地の“見える化”で効率的な作業をサポート 草地管理支援システム

公共牧場は、畜産生産基盤を支える重要な組織です。しかし、経営の効率化や人手不足など様々な面から、草地管理の効率化が求められています。

広大な放牧草地の中には

例えば、

- ・ふんがたまっていて、施肥をしても無駄になってしまう場所
- ・更新しても、すぐに牧草が衰退してしまう場所

など、牧草生産に適していない環境があります

このような場所には施肥などの管理をしても、無駄になってしまいます。

そこで、

草地管理の効果が明らかな場所を、“重点管理エリア”として絞込むことで、作業時間や投入資材の削減が可能になります。

では、“重点管理エリア”は、どうやって決めればいい？

これをサポートするのが、草地管理支援システムです。

◎牧場ごとに作成された、傾斜区分図や入力情報（ふんの集積場所など）から、自動的に“重点管理エリア”を抽出して、地図上に表示して“見える化”します。



◎実際に作業した場所を確認のための“作業軌跡表示機能”のほか、“簡易測量機能”、“植生・写真管理簿機能”等を搭載し、草地管理をサポートします。

◎“草地管理支援システム”は、クラウド型GISシステムを利用したサービスです。インターネット接続環境であれば、放牧地でも情報を確認することが出来ますし、都道府県の畜産センターや農研機構などの関係機関ともデータを共有することが可能です。

◎利用にあたっては、牧場ごとに牧場地図や管理簿などの整備が必要になります。